

# 國學院大學學術情報リポジトリ

Historical consideration on Basel congress of Second International (1912) and national congress of SFIO in St. Quentin (1911) and Lyon (1912)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001655">https://doi.org/10.57529/00001655</a>

## 1912年の第2インターナショナル・バーゼル大会と1911年のフランス社会党サン・カンタン大会と1912年のリヨン大会についての歴史的省察

横山 謙一

### はじめに

ルイ・アラゴンの小説『バーゼルの鐘』~~XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX~~1934年~~XXXX~~でも知られる1912年11月24日と25日にスイスのバーゼルに所在するルーテル派のバーゼル大伽藍~~XXXX~~カテドラル~~XXXX~~で開催された第2インターナショナル・バーゼル大会は、ヨーロッパの社会主義者がバルカンでの戦争で脅かされたヨーロッパの平和を擁護するために協調した行動を取る目的を持っていた。

前回の1910年に開催された第2インターナショナル・コペンハーゲン大会以後に国際情勢はさらに悪化して、1911年7月にモロッコでアガディール事件~~XXXX~~第2次モロッコ事件~~XXXX~~がおきた。アガディール事件が起きて間もなく、ジョレースとヴァイアンはフランス社会党 SFIO の常任執行委員会 CAP の名前で、この重大な事件に対処する行動を決定するために、国際社会主義事務局 BSI の会議を招集することを求めた。国際社会主義事務局 BSI は各国支部の意見を聴取したが、ドイツ社会民主党 SPD の執行部はこの事件が国内世論を国内問題と選挙から目をそらすためのドイツ政府の「陽動作戦」であり、さほど重大ではないとして会議の開催に反対した。結局国際社会主義事務局 BSI の会議を招集要請の権限を認めたペンハーゲン大会の~~XXXX~~決議にしたがって、1911年9月23日 - 24日にチューリヒで第13回国際社会主義事務局 BSI 全体会議は開催され、増大する戦争の危機を~~XXXX~~回避するために平和擁護の闘争を強化することを決定した。このドイツの党の消極性と反応の遅さはローザ・ルクセンブルクらの党内左派からの批

判を受け、同年9月のドイツ社会民主党 SPD イエナ大会でもベーベルらの党執行部は責任を問われた。<sup>☒☒</sup>

この第13回国際社会主義事務局 BSI 全体会議の直後の1911年9月末に、イタリアのトリポリタニア侵略が起きた。そのために、この試練に対処するインターナショナルの行動と動員の能力が試された。この侵略は同年9月28日からイタリア-トルコ戦争を勃発させた。同年11月5日に国際社会主義事務局 BSI の発議でヨーロッパ各国の首都や諸都市で大示威行進が行われた結果、国際社会主義の力量に対する楽観と信頼が醸成され、インターナショナルの指導者たちは試練をくぐり抜け戦争に反対する能力を証明したと自信を持った。<sup>☒☒</sup>

1911年から始まるオスマン帝国からキリスト教諸国が分離・独立するための戦争の準備は、中央ヨーロッパにも余波を及ぼそうとしていた。すでにトルコでの青年トルコ党の革命に乗じて1908年にボスニア-ヘルツェゴヴィナを併合していたオーストリア-ハンガリー二重帝国がバルカン半島に進出したことに対して、1912年3月-4月にはセルビア、ブルガリア、ロシア、モンテネグロそしてギリシアはオーストリア-ハンガリー二重帝国との敵対関係を強め、また同時にロシアの主導の下にオスマン帝国に対抗する「バルカン同盟」がブルガリア、セルビア、ギリシア、モンテネグロの4か国間で結成された。「バルカン同盟」は、1912年10月8日にオスマン帝国との戦端を開いて第1次バルカン戦争が勃発する。この戦争は翌年の1913年5月30日のロンドン条約によって終結した。しかしバルカン同盟を締結していたブルガリアとセルビア、ギリシア、モンテネグロの三国は戦争の結果獲得した領土の分割をめぐって対立して、1913年6月29日に第2次バルカン戦争が始まり、同年7月にセルビアとギリシア、モンテネグロの側でルーマニアは参戦し、オスマン帝国もブルガリアに宣戦して、同年8月10日にブカレスト条約で講和が結ばれるまで戦争は続き、ブルガリアは敗戦国となった。

2度にわたるバルカン戦争は、バルカン諸国の間での決定的亀裂と対立

を生み出した。ブルガリアは三国同盟と結びつき、一方セルビアとモンテネグロはパンスラヴ主義の旗印の下にロシアとの協力関係を深め、ボスニア-ヘルツェゴヴィナを併合したオーストリアとの対立をいっそう強めた。1914年6月28日にボスニアの中心都市サラエヴォで、セルビアとボスニアの民族主義者の手によって、オーストリア-ハンガリー帝国皇位継承大公フランツ・フェルディナントと妻が暗殺された。この事件を口実にオーストリア-ハンガリー帝国はセルビアに宣戦布告して第1次世界大戦へと発展する。

## 第1章 1912年10月28日 - 29日の国際社会主義事務局 BSI 全体会議

このようにヨーロッパの全面戦争に発展しかねない危機と局地戦争が相次ぎ、バルカンでの戦争の危機に直面した社会主義インターナショナルは1912年にバーゼルで臨時大会を開いて対処しようとし、ヨーロッパの社会主義者にバルカンでの戦争がヨーロッパ全体の戦争に拡大することを阻止することを呼びかけた「バーゼル宣言」が出されたが、根本的解決策にはたどり着くことが出来なかった。そして戦争を阻止するための究極的で最終的な決議の採択は、次回の社会主義インターナショナル・ウィーン大会にまたも持ち越されることになった。

しかし1913年に開催される予定であったウィーン大会はすでに1914年に延期されていた。その決定を行ったのは1912年8月末の国際社会主義事務局 BSI の事務局会議である。この会議でファン コル VAN KOL らオランダ代表の提案で緊急性を要する問題がないのでインターナショナル創立50周年記念行事にあわせて1914年に延期する提案が出され、ドイツ、オーストリアなど過半数を少し超える賛成で可決されたからである。この延期の提案には、前大会で満場一致で決定され社会主義インターナショナル大会の日程を覆すことへのフランス、イギリスなどの激しい反対があった。この延期の本当の理由はチェコとドイツの党の対立があり、冷却期間が必要

であるとユイスマンスはヴァイアンに書簡で書き送っている<sup>☒☒☒</sup>。

ジョレースは直接に文書でブリュッセルの国際社会主義事務局執行委員会に訴えることは稀であったが、ヴァイアンがその肩代わりをして書簡で伝えた。ヴァイアンはジョレースと同意の下に国際社会主義事務局書記のカミーユ・ユイスマンスにバルカンで重大な危機が起きており平和を危険にさらしていることに注意喚起し、同時にインターナショナル執行委員が採るべき行動について示唆している。これに対してユイスマンスは1912年5月にすべての加盟する党に対して国際情勢についての詳細な報告を求め、またコペンハーゲン大会に提出されたケア・ハーディ-ヴァイアン修正案についての見解を求めた。返答は危機の深刻さを示すものであった。戦争への警戒を呼びかける訴えは相次ぎ、特にフランス社会党 SFIO からは会議を招集するように強い要請があった。1912年のイタリア-トルコ戦争以降に国際的緊張は強まるばかりであった。

国際社会主義事務局 BSI は声明を出す必要性をみとめ、ルーマニア社会民主党のクリスチャン・ラコフスキー Christian RAKOVSKI は、執行委員会からバルカンの諸党とトルコの党の共同宣言と行動方針を準備することを任された。1912年10月15日に執行委員会はこの声明を発表し、他方ですべての社会主義諸政党が断固とした行動を取ることを要請した。この危機的な状況に対してインターナショナルが採るべき行動を明確化させるために、1912年10月28日に緊急の国際社会主義事務局 BSI 総会 réunion plénière をブリュッセルに招集した。突然の招集であったにもかかわらず、過去に見ない多数の代表を結集することが出来た。18か国の代表がこの総会に出席し、フランスからはジョレース、ヴァイアン、ピエール・ルノーデル、ジャン・ロンゲ、アンジェール・ルーセル Angèle ROUSSEL の5人が参加した<sup>☒☒☒</sup>。

全体会議第1日の議案は国際情勢の検討であり、オーストリアのヴィクトル・アドラーの報告から議論は始められた。アドラーは「プロレタリアートは現在前代未聞の困難な状況におかれている」と指摘した。国際情勢の

分析の後にアドラーは、インターナショナルの努力は列強の介入、とりわけオーストリアとロシアの介入を阻止することに傾注されるべきであると指摘した。ヴァイアンはアドラーの分析に同意しながら、インターナショナルが採るべき行動は各国で戦争に反対する強固な運動を生み出して「各国政府が革命的実力行動の強烈さに恐れを抱く」までにすることによって、この紛争を全般化することを不可能にして、「強固で広がった実力行動が戦争を不可能にしないまでも、少なくとも実現不能にさせる」ことに力点を置くべきであり、そのために国際社会主義事務局はヨーロッパのプロレタリアートに向けた声明を公表するべきだと主張した。ドイツの代表ハーゼとドイツ社会民主党 SPD 議長はドイツでシュトゥットガルトとコペンハーゲンの決議を実行に移し、強力なプロパガンダによって戦争に対する不支持が拡大したとのべた後で、ジョレースが発言した。その議事録はベルギー労働党機関紙「プープル」に掲載された。

「ジョレースは問題が単純な形をとっていないと考えた。彼は自分たちの任務を複雑化させるような事実に対し心構えをしていると言った。『昨日ナントでフランスの首相ポワンカレ——筆者注は重要な宣言を行った。彼はすべての国家が関心を寄せ、常にその考えを変更しており、すべての事件は諸国家によって共同で監視され、もっとも適当な時期の仲裁を準備していると言った。首相はその日は我々が考えているよりも近いと付け加えた。流血をとめる目的を持つ仲裁と我々が直接に闘うことはむづかしいであろう。しかし仲裁は本来2つの条件を前提としている。第1に仲裁は戦争を行っている両当事者が暗黙のうちにもしくは明確な形で要求されなければならない。それなしには当事者のいずれかの利益になり他方に犠牲を強いる。第2に仲裁は公平無私でなければならない。ああとジョレースは言う。フランスは利益を追求しているとは思わない。しかし私は仲裁が全部に対して公平無私であるとは思わない。私はヨーロッパ列強を指す——筆者注が過去においてトルコに対して行ったと同じ過ちをバルカン諸国に犯そうとしているのではな

いか心配している。ヨーロッパはとりわけ責任がある。アブドゥル-ハミド<sup>☒</sup>クーデタで弟の政権を倒したモロッコのスルタン——筆者注<sup>☒</sup>を新体制が出来ると直ぐに許容して、ボスニア-ヘルツェゴヴィナとトリポリタニアを手に入れ、トルコのナショナリズムを<sup>☒</sup>り立てた。ヨーロッパがトルコを欺いて横取りをしたように、ヨーロッパはバルカン諸国を欺いて横取りをするために介入するであろう。もし我々がこの仲裁と闘わないのであれば、ヨーロッパのエゴイズムを監視する必要がある。こうした理由から我々は態度を明確化しなければならない。私はヨーロッパの政府は心底では戦争を望んではいないと考えるが、彼らは思うがままのエゴイズムをむき出しにすると思う。私は彼らが戦利品と平和を望んであると思う。そうさせないために国際プロレタリアートは有効な行動を実行しなければならない。フランスではプロレタリアだけでなく平和の意志がある。急進党は彼らの新聞で我々はバルカンの問題に我々を介入させる秘密条約は知られていない。我が農民たちはこのような介入を受け入れないであろうと言っている。』しかし『我々は直ぐに行動をとる必要があると私は考える』とジョレースは付け加えた。ジョレースが言う意味の今招集されている国際大会は単なる各国支部への回状よりも有効であると彼は結論した。こうすれば各国政府はプロレタリアートが良く知っており介入する決意であると感じ取るであろう、と。」

このジョレースの発言によって彼が単にバルカン戦争を終わらせるだけでなく、西欧列強によるバルカン戦争を利用した介入と領土分割に警戒していたことが理解でき、興味深い。

その後でヴァイアンの提案に基づきカウツキーがこの会議での議論を集約した宣言案を起草して、5人から構成される委員会で作成させて会議で採択した。この委員会にはインターナショナルの5つの大政党の代表が指名された。ハーゼ<sup>☒</sup>ドイツ<sup>☒</sup> アドラー<sup>☒</sup>オーストリア<sup>☒</sup> ケア・ハーディ<sup>☒</sup>イギリス<sup>☒</sup> ジョレース<sup>☒</sup>フランス<sup>☒</sup>とルバノヴィッチ<sup>☒</sup>ロシア<sup>☒</sup>の5名であった。<sup>☒☒☒</sup>「バーゼル宣言」として知られる「社会主義インターナシヨナ

ルの戦争に反対する宣言

は1912年11月のバーゼル臨時大会で採択された。

残る問題は、ひとたび1914年に延期されたインターナショナル大会を前倒ししてコペンハーゲン大会で決定されたように1913年に開催するか、予定を変更せずにインターナショナル大会を1914年に開催するが、その代わりに戦争の脅威に直面したプロレタリアートの行動を決定するための国際協議会を開催するかを決めることであった。この問題について長い議論が行われ、オランダ代表の提案はイギリス代表からの激しい反対に遭遇した。全体会議が成果を出せないまま終わるとを恐れた国際社会主義事務局議長のヴァンデルヴェルドは、妥協案としてクリスマスの日にバーゼルでヨーロッパの各支部の協議会 *conférence* を提案した。これを受けてジョレースは臨時大会の開催を提案し、イギリス代表の3人を除いて満場一致で可決される。こうしてバーゼルでの会合は協議会としてではなく臨時大会として開催されることでほぼ全体の一致を見た。

妥協案を採択させたジョレースの発言は以下の通りであった。

「ジョレース私はフランス支部の意見を始めに明確にしたいと思います。私は法律家ではなく、そうありたいとも望みません。問題はそれよりも重大です。大会を遅らせるどのような強い理由もありません。大会を早めるやむを得ない理由があります。日程はどちらの支部にとっても不都合があります。現在の状況での延期は無力さの嘆かわしい告白になるでしょうし、我々はいつもあまりに遅れて行われる公的外交をまねることになります。オランダの提案がドイツ社会民主党 SPD——筆者注ケムニッツ大会で支持を受けて作成された時には、戦争は起きていませんでした。インターナショナルの最初の行為は平和の維持のためにすべてを行う意志を自覚を持つことであり、皆に持たせることです。おそらくベルギー支部の提案はこの精神に裏打ちされています。しかしヨーロッパの協議会以上のものがが必要です。アメリカやその他の支部の代表を退けてはなりません。このような大会の成功は確実です。世論は

日に日に心を打たれるでしょう。さまざまな集団が多数の代表を送ってくることは間違いありません。もし大会の日付を早めるならばより広範な『戦争に反対する国際大会』図10という呼び方で行われるでしょう。」

こうして1912年11月24日 - 25日にバーゼルで臨時大会は「国際情勢と戦争に反対する行動の一致協力 La situation internationale et l'entente pour une action contre la guerre」という唯一の議題で大会を開催することが決定された。この歴史的な臨時大会ではジョレースが中心的役割を果たすことになる。彼の言葉によれば「戦争に反対する社会主義運動の団結を圧倒的な形で証明し、国際的力の調和に満ちた意志表現」をおこなう大会の発議を行ったのである。この国際社会主義事務局の作業が終了した後、ブリュッセルの人民会館では大規模な集会が行われ、ジョレースが弁士の一人として演説を行う。

## 第2章 フランス社会党 SFIO 第8回サン - カンタン大会（1911年4月16日 - 19日）

コペンハーゲン大会が終了した後、1912年11月24日・25日の社会主義インターナショナル・バーゼル臨時大会が開かれるまでの間に、フランス社会党 SFIO は1911年4月16日 - 19日にエヌ Aisne 県の都市サン - カンタンで第8回全国党大会を、1912年2月18日 - 21日にリヨンで第9回全国党大会を開催した。この章では第8回サン - カンタン大会について取り扱う。

フランス社会党 SFIO サン - カンタン大会が開催された1911年はアガディールの年であり、同年7月のモロッコでのこの事件をはじめとして、イタリアによるトリポリタニア占領とイタリア - トルコ戦争と相次いで国際的危機をもたらす大事件が起きる。しかしサン - カンタンでフランス社会党 SFIO 全国大会が開かれた4月16日 - 19日は嵐の前の状況であり、アガディール事件の原因となるフランス軍のフェズへの派兵は大会が終了し

た4月23日の出来事であった。内政では第2次ブリアン内閣が2月27日に退陣して、短命な急進党のモニ内閣が3月2日に組閣された。そして5月21日にイシ-レ-ムリノでのパリ-マドリード間航空機レーススタートに立ち会ったベルトとモニらの来賓の中に離陸時に失速した航空機が墜落し、ベルト陸相が死亡、モニ首相は重傷を負った。6月23日にモニ内閣は倒れ、アガディール事件に直面することになるカイヨーが組閣をもとめられた。

### 第1節 フランス社会党 SFIO サン-カンタン大会4月16日第1日午後の全 体会議と4月17日大会第2日午前・午後の全体会議：議員グルー プの報告と審議

通常のフランス社会党全国大会では、国際社会主義事務局 BSI に派遣されていたヴァイアンによる報告の他に、国際情勢について議題として取り扱われることはほとんどなかった。またヴァイアンの国際社会主義事務局 BSI についての報告をめぐって多くの発言と討議が行われることは稀であった。通常国際情勢については、社会主義インターナショナル大会の前に通常パリで開催される臨時全国大会で社会主義インターナショナル大会の議題に合わせて審議されることが慣例になっていたことは前回のコペンハーゲン大会の例から見ても明らかである。通常の全国党大会では、主として選挙問題と選挙で支持を訴える労働者・農民などの諸階層に対する選挙綱領の作成に追われることが多かったのである。

しかしこの第8回サン-カンタン大会ではパリでの臨時大会ではなく通常の全国党大会で、社会主義インターナショナル・コペンハーゲン大会で積み残しになっていたケア・ハーディ-ヴァイアン決議について議題の一つとして割り当てられた。さらに特筆すべきは国際社会主義事務局 BSI 代表ヴァイアンの報告が極めて詳細なもので、報告への質疑応答もヴァイアンを含め6名の参加者が行った。このことは国際問題への党の関心が強まってきたことを表していると言えるであろう。その他1912年に行われる

予定になっていた市町村議会選挙と党規約改正の問題、そして諸般の事情から前回全国党大会で提案されることがなかった農民問題が主要な議題とされた。

第8回サン・カンタン大会の時点では前回第7回党大会の53,928名の党員数を9,430名増加させて63,358名に増加していた。大会にはアルジェリアとマルチニークの2つの海外県と81県からの代表と議員グループを併せて269名が大会に参加し、議決権総数は402票であった。代議院議員数では1906年フランス代議院総選挙で54議席を獲得したのに対し、1910年総選挙では76議席と22議席を増加させていた。しかし結党以来相変わらず党の主要拠点はノール県とセーヌ県の2県で、セーヌ県は党員数8,750人、議決権数45票、大会参加者43名であり、これに対しノール県は党員数11,525人、議決権数59票、大会参加者数49人で、他の県連合を圧倒していた。<sup>11</sup>前者はヴァイアン-ジョレス派 = 党内主流派の、後者はマルクス主義ゲード派の拠点であった。

大会は通常通り「招請状」に定められた議事日程に従って審議が行われた。1 全国協議会の報告 書記局、会計係、機関紙「ソシアリスト」、文庫について 2 議会グループの報告、3 国際社会主義事務局 BSI への代表の報告、4 1912年市町村議会選挙、a. 市町村綱領の制定、b. 選挙の準備、5 「ユマニテ」紙編集局の報告、6 農業問題、7 党規約の改正、8 軍需品を供給する工業部門での労働者ゼネラル・ストライキについてのケア・ハーディ-ヴァイアン修正案の8項目が順番に報告を受けて、審議された。<sup>12</sup>

4月16日大会第1日午後全国協議会の報告が行われ、終了後に引き続いて大会1日午後と翌日4月17日大会第1日午後と第2日午前・午後には議会グループの報告と報告についての発言と審議が行われた。議会グループの報告がガール県代議士のユベール・ルージェ Hubert ROUGER によっておこなわれ、ついでこの報告についての発言と審議が行われた。

議会グループの報告に対する発言を見るならば、発言は新しく選ばれ増



報告者のヴァイアンは国際社会主義事務局 BSI に提出した報告を読み上げる。この報告には最近国際社会主義事務局 BSI 書記のカミーユ・ユイスマンスから届いた書簡を付帯した。ユイスマンスはフランス語<sup>14</sup>ワロン<sup>14</sup>系のベルギー人とオランダ語<sup>14</sup>フラマン<sup>14</sup>系ベルギー人の連帯と融和を説いていた。

ヴァイアンの報告はインドの革命家サヴァルカル SAVARKAR がマルセイユ港に停泊中の船舶内でフランスの警察に逮捕され、これにジョレースやケア・ハーディが激しく抗議して、ハーグの国際仲裁裁判所で裁かれたが、サヴァルカルの亡命権は認められず、イギリスの警察と裁判所に引き渡されたことから始まり、次いでフランスとイギリスの議会でイギリスとドイツの軍艦建造競争に反対する行動が両国の社会主義者によってとられ、これに同調してドイツ帝国議会でもドイツ社会民主党 SPD が反対の意志を表明したこと、オーストリアとイタリアの対立が深まる中で両国の社会主義者が共同でローマにおいて反対するデモンストレーションを行ったことなど多岐にわたっている。その報告にはトルコ、ペルシア<sup>14</sup>イラン<sup>14</sup>ポーランド、チリ、アルゼンチン、メキシコでの運動についての最近の社会主義者の動向についても付け加えられており、また日本での幸徳秋水の処刑への哀悼の辞も記されていることは興味深い<sup>14</sup>。

国際社会主義事務局 BSI への党代表であるヴァイアンの報告をうけてこの報告についての発言と審議が行われた。

国際社会主義事務局 BSI への代表ヴァイアンの報告をめぐる質疑の口火を切ったのはマルクスの孫として知られるジャン・ロンゲ Jean LONGUET であった。しかし彼はマルクス主義ゲード派ではなくジョレースの支持者であった。ロンゲは特にイギリスとドイツ、フランスの3国の社会主義者が軍備拡張に反対する運動を強化して、インターナショナル・シュトゥットガルト大会の決議を実行することが必要であると主張した。そしてパブロ・イグレシアス Pablo IGLESIAS 率いるスペインの社会主義者が<sup>15</sup>議会内の共和派と共同してモロッコへの出兵に反対したことを賞賛した。

次に発言したラファルグからは、ユイスマンスがオランダ語系ベルギー人に好意的立場をとっているのが国際社会主義事務局 BSI 書記としては不適任ではないかとの疑念が出された。これに対してヴァイアンは両言語地域圏に公平であると弁護し、コート-デュ-ノール県の代議員ブリュケール BRUCKÈRE がユイスマンスからの書簡を公表してユイスマンスの立場を擁護した。ゲード派のラポポール<sup>16</sup>ノール県代議員<sup>17</sup>は国際社会主義事務局 BSI の会議が開かれる頻度があまりに少ないと異議が出され、もっと頻繁に会議を開く必要があると主張した。マルセル・サンバはラポポールの主張を支持した。ドイツ社会民主党 SPD の強い支持者であったゲード派のラファルグが、国際社会主義事務局 BSI 書記のユイスマンスがオランダ語系ベルギーの社会主義者に好意的で、ひいてはオランダ社会主義労働党とドイツ社会民主党 SPD に近い立場をとっていることを問題にするのは意外であるのだが、そこにはラファルグの心底にドイツの党へのライバル意識が存在していたことを示しているのである。ヴァイアンはこれに対してユイスマンスはフランスの言語や文化に敵対的ではなく、フランス語にも通じているが、ベルギーにはフラマン系ベルギー人の問題が存在しており、フラマン系のベルギー人はとフランス系と同じ権利を求めている事実をも指摘した。<sup>16</sup>

大会終了後にユイスマンスはフランス社会党書記のデュブリユにフランス語とフレミッシュ<sup>17</sup>オランダ語<sup>18</sup>の2言語がほぼ相半ばして話されているベルギーにおいて、ベルギーの党も自分も決してフランス文明を軽視してはいないとする書簡を送っている。<sup>17</sup>

しかし大会ではあくまで問題は国際事務局 BSI の会議をより頻繁に開催することを求めることにあると主張するラポポールをヴァイアンは支持した。最終的にヴァイアンの報告は大会で採択された。<sup>18</sup>

### 第3節 4月18日大会第3日 市町村問題についての報告と審議

4月18日大会第3日午前から市町村問題が審議された。最初に報告者のセヌ県選出の代議院議員のアドリアン・ヴェベル Adrien VEBER が報告を行った。ヴェベルは市町村問題については全国協議会が市町村問題の委員会に決議案の起草を委ね、さらにこの委員会はアルベール・トマ Albert THOMAS、カシャン CACHIN、コンペール・モレル COMPÈRE-MOREL、ヴェベルなど20名からなる小委員会にその起草を任せ、この小委員会はベドゥースとヴェベルとナヴァールに小委員会の意向に添った決議案の起草を依頼した。決議案は小委員会と委員会の裁可を得て提出されたと彼は報告する。そして決議案はどの傾向の社会主義者にも同意を得ることが可能な、そしてインターナショナルの方針にも適う、どの地域にも適用可能なものであると自賛する。政治的綱領については比例代表制選挙を要求するとした。報告者はコンセイユデタが字句に拘泥する狭い行政法の解釈を行って市町村の自由を拘束しているが、より自由な解釈の余地のある行政執行を求める、経済分野でコンセイユデタが認めていない市町村による公営の直接管理を認めることを、土地収用を容易にすることを求めるとのべた。

経済分野では市町村による直接管理の公営を要求するとヴェベルは言う。これは国家資本主義であるが、これはマルクスが認めていると彼は言う。財政面では租税の改革を行い、間接税を廃止することを目指すと主張する。そして市町村による保険制度、特に火災保険を確立し安価な保険料で労働者に保険を提供することを目指すと訴える。さらには市町村による衛生的な賃貸公営住宅を建設することをも視野に入れてい<sup>19</sup>ると言う。

最初に質疑に立ったエドガル・ミヨー Edgard MILHAUD は、ヴェベルの提案に両手を挙げて賛成した。しかし公営企業の借入返済金と減価償却についての不正確で楽観的な理解、つまり社会主義社会の到来で万事解決するという理解には、ジョレースからもゲードからも批判が出された。ミヨーはブルジョアが掌握する市町村よりもはるかに安価な公共サービスを社会党の市町村による公共企業は提供でき、公共企業の労働者にも高い

賃金を支払えるという資本主義の枠内での改良を強調しすぎて、彼の楽観主義に多くの批判が大会に参加した県連合の代表から出されたのであった。1896年から1904年までリール市長を務めたドゥロリ DELORY も公営企業は資本主義内部での改良であって、社会主義そのものではないと批判した。ミヨールの強弁は続いて、あくまで譲ろうとしない。あくまで公共企業の優位性を強調する。最後には何時までも続く発言を止めたことに対しラファルグは感謝し、アルベール・トマは理論を持たない党に理論を与えてくれたと皮肉を忘れなかった。

午後の会議はルノーデルが議長を務めて開始され、議題は問題の市町村公営企業についてであった。最初にゲード派のコンペール - モレルが発言して、ミヨールに我々は決して公営企業に反対ではないと念を押しした上で次のように言った。保守派から社会主義者まで市町村直営公営企業を設立したが社会主義に行き着いた例はないと言う。公営企業は諸経費を節約し労働者に利益を与えることは否定しないが、また社会党の公営企業でも大幅な赤字を生みだし失敗した例もあると認める。しかし公営企業は義務であってはならないと彼は主張する。彼はそしてゲード派は自治体社会主義が社会主義の途から逸脱させることを不安に思ったのである。

次に協同組合主義者のポワソン POISSON が発言して、公営企業を義務化しないことには同意するが、市町村自治体の独立を擁護するべきであるとの原則を提示する。そしてコンペール - モレルに反論して市町村直営の公企業が資本主義の利潤を追求しないなどのメリットを強調する。さらに社会主義者は市町村の公営企業で行政を運営することで、行政の管理を学んで身につけ、社会主義に備えるべきであると主張する。

ポワソンに続いてアリエ県代表で現職のモンリュソン市長であるゲード派のコンスタンスは同じゲード派のコンペール - モレルを支持して、選挙で市町村の権力を獲得して社会主義を実現すると考えるのは危険な幻想であると主張する。小規模の市町村では公営企業を設立することは不可能であり、都市部でも県や中央政府の妨害に遭遇し、社会党の市町村は労働者

の利益のために役立つことは間違いないが、財政などの難しい問題を抱えていると指摘する。

次に壇上に立ったヴァイアンは党の統一の推進者として対立するゲード派とそれ以外の党派との仲裁を試みて、両者の言い分の正当な点を評価した。また彼はドイツとイギリスの実例を挙げながら、本来の市町村において果たすべき社会主義者の役割を描き出す。資本主義が自由競争の時代から高利潤を上げるためにカルテルを経て銀行金融資本の集中化とトラストの時代に入り、自由競争を排除して保護貿易の時代に入り、消費者物価をつり上げ労働者の賃金を押さえ込もうとしている時代にこそ、労働者の組織化が重要になると同時に、公営企業によって電気・ガス・水道など消費者物価を抑制し、社会党の市町村自治体が間接税と関税を廃止して労働者の生活費の負担を軽減しなければならないとヴァイアンは主張した。

ここでラファエルが発言して、スイスやイギリスのようなパン製造販売業や精肉業、プロレタリアートの子どものためにミルク販売などの食品店の公営企業が必要であると主張した。ヴァイアンはこれに同意して、これらの企業への労働者の管理が必要であると答えた。ゲードも次に発言して市庁舎に入ることは労働者の解放ではなく、武器を手にするだけで、目的ではなく手段であることを忘れてはならないと念を押した。ゲード派は常に社会革命以外は「逸脱」であると理解していたのである。ヴァイアンが物価の引き下げによって労働者の賃金の引き下げをもたらすとの指摘が間違っていると付け加えて、ゲードとの議論に終止符を打った。

他の発言予定者はヴァイアンの主張に賛成して、発言を次々と取りやめた。アルベール・トマもヴァイアンとミヨーの見解を支持すると表明して議論は打ち切られる。最終的にはコンペール・モレルが決議案を提出し、ヴァイアンの修正案と併せてコンペール・モレル・ヴァイアン提案として5票を除く満場一致で採択された。この日の夜の審議は予定通り「市町村選挙の選挙戦術」を議題にすることになる。

#### 第4節 1911年11月1日・2日 フランス社会党 SFIO パリ臨時全国大会

臨時大会は通常社会主義インターナショナル大会の準備のために開催される。しかし1911年11月1日・2日のパリでの臨時全国大会は党規約の重要な改正のために開かれた。重要な改正というのは党の執行機関として党全国大会と次の大会まで「全国協議会 Conseil national」が決定を行ってきたが、3か月に1回開催される「全国協議会」は執行機関ではなく、決定機関であり、執行機関としては「常任執行委員会 Commission administrative permanente」略称 CAP が行ってきたが、党にとっての内閣に当たる「常任執行委員会」は党規約上にはその任務と役割について明確な規定がなかったばかりか、党活動にとって中核的役割を果たしてきた代議院議員を排除してきたからである。排除の理由は社会党の執行部が議員たちによって支配される議会主義の党になることへの懸念からであり、事実1899年のヴァルデク・ルソー内閣へのミルラン入閣はミルランの独走と言っても良い個人的決定によって行われたものであり、1905年のグローブ大会で統一社会党を結成した前後にはブリアン、ミルランなどの議員は党の統制外にあって、大臣職を求めて党を離脱したり除名されたりした。党の一般的活動家からの議員不信が根強かったのである。しかし統一社会党が総選挙の度に議席を増やしていくと、逆に党の執行機関から党を指導する力量のあるヴァイアンやジョレースなどの代議院議員を排除したままにすることは、党の力量を充実させる観点からもマイナスであるとの認識が広まってきた。そこで党規約を改正して「常任執行委員会」の任務と役割を明確化すると共に、代議院議員がこの執行機関に入ることを可能とさせることを明文化しなければならなくなった。この他党創立後6年が経過して、党大会での各県連合への票決数の変更など大幅な党規約改正が行われることになる。

この大幅な規約改正を行うために1911年11月1日・2日のパリでの臨時全国大会が開催されたのである。「党規約改正委員会報告 Rapport de la

Commission de Révision des Statuts」によれば「常任執行委員会」については、「第32条☒常任執行委員会は名簿制投票によって直接に年次全国大会で秘密投票によって選ばれる23名から構成される<sup>☒23☒</sup>」という文案が「常任執行委員会」から提案された。第33条で比例代表制によって県連ごとの代表によって選ばれるとした。提案される名簿の人数は定数と同じ23名とされた。

また議員グループの「全国協議会」と「常任執行委員会」への代表については「第31条☒全国協議会への社会党議員グループの集团的代表は10分の1であり5人以下であってはならない。」「第35条☒議会の議員は個人的に全国協議会に代表されない。当該条文に従って集团的代表によって代表される。議会の議員は常任執行委員会に加わらない」とする文案が改正案として出された。改正に賛成する代議員でも「常任委員会」に議員を含める案には反対したが、レヴェリオン代議員から第35条の議員グループから5名の集团的代表の出席を認め、要請があれば「常任執行委員会」と議員グループの合同会議を行うとする修正案が出された<sup>☒24☒</sup>。ただでさえ実質上党の指導者となっている議員にこれ以上権限を上乗せすれば、社会党は議会主義の政党になるとの意見も出された。

大会第1日午前の審議では「常任執行委員会」への議員グループの集团的代表を認めるとするノール県連合の提案に対して、議員グループの集团的代表を含む党規約第IV編の全体的議論を行う対案が出されて、第1日午後の審議では217票対173票で後者が採択された<sup>☒25☒</sup>。ヴァイアンは現状維持を主張し、これに対して「常任執行委員会」への議員グループの集团的代表を認めるとするノール県連合の提案は反対197票対賛成168票、棄権26票で否決された。この採択の結果、議員を「常任執行委員会」から排除することはアルマーヌ派☒革命的社会主義労働党☒が統一に加入する条件であったことや、統一協定でも取り決められていたとして今回も議員の「常任執行委員会」への参加は見送られる結果となる。大会第2日には「全国協議会」についての党規約改正が審議された。

最終的には議員の「常任執行委員会」への参加が認められるようになるのは、1913年3月のブレストでの第10回党大会で「党再編委員会」が選出され、この後の全国協議会で議員の「常任執行委員会」への参加が認められてからであった。1914年の第11回アミアン党大会での常任執行委員会選挙では24名の選出された委員のうちジョレース、ヴァイアン、ゲード、マルセル・サンバ、アルベール・トマ、コンペール・モレル、グルーシエ、ドラ・ポルトの8名の代議院議員が「常任執行委員会」に選出された。実質上社会党の中心的指導者が党の執行機関に選出されるのは1914年の第1次世界大戦前夜のことであった。

### 第3章 フランス社会党 SFIO 第9回リヨン大会 1912年2月18日 - 21日

フランス社会党 SFIO 第9回リヨン大会は1912年2月18日 - 21日にリヨン市のユニテール会館 Salle de l'Unitaire で開催された。リヨン大会では前回のサン・カンタン大会に比べて党員数を299名増やして63,657名に、党連合の数ではあらたにチュニジアを加えて85県連合・地方連合となったことが全国協議会から報告された。規約上で認められた大会参加代議員数は360名、議決権総数2612であった。オード県、ロワレ県、マルティニーク県、オート・ソーヌ県は欠席した。社会党第8回大会パリ臨時大会での抜本的な党規約改正によって各県連合の議決権数について党規約の新しい第22条によって各県連合に与えられた1議決権に加えて、25人の党費納入党员につき1議決権を与えるようになったために議決権数は大幅に増大した。また議員の全国協議会と常任執行委員会 CAP への選出も認められるようになった。

この大会で審議される議題は全国協議会の報告など通常の議題の他に、農業問題と市町村綱領と最終案が決定されず臨時的な条文となっていた党規約第37条・第70条の審議が、そしてとりわけインターナショナル・コペ

ンハーゲン大会で先送りにされていたケア・ハーディ-ヴァイアン修正案についての議論が予定されていた。この他に前大会から先送りされた非宗教化☒ライシテ☒と反ユダヤ主義、フリーメーソンの問題も招請状に今大会の議題として掲げられていた。

議員グループの報告には議会で審議された主要法案、特に予算案に対する党議員グループの投票行動と発言の趣旨が含まれている<sup>☒28☒</sup>。この報告で思いがけない問題が議論となる。前年の代議院でゲネシエール議員とコンペール-モレル議員の発言をめぐって激論が展開され、この2議員の発言について決議案が提出され議決された問題であり、詳細は後述する。

## 第1節 大会第1日午後：ケア・ハーディの大会出席とケア・ハーディ-ヴァイアン修正案についての議論

大会第1日午後の全体会議の冒頭で、イギリス独立労働党を代表してケア・ハーディが演説してジャン・ロンゲが通訳をした。この時の演説は大会議事録に要約して記されている。

「12か月このかた、イギリスでは労働運動が大きな進歩をとげています。大きな変貌が生まれています。そして労働者階級の賃金はおおいに注目すべき非常に著しい割合で引き上げられています。ケア・ハーディは言う。これはイギリスの労働者が二つの行動形態すなわち直接行動と政治行動を結びあわせることを知っているからであります☒拍手☒ 直接行動は現在のイギリスにおいて極めて有効です。しかしイギリス労働者の精神において政治行動が占めていた地歩を少しばかり後退させたと言うことは出来ません☒拍手☒ イギリスの労働者は闘いにおける二つの武器、すなわちストライキと投票を評価して、両者を対立させてはしません☒拍手☒ ストライキが投票に敵対しているのではなく、ストライキと投票が併存しているのです。」<sup>☒29☒</sup>「次回のストライキは1か月以内に起こるイギリスの鉱山労働者の大ゼネラル・ストライキで、例を見ない労働者の心情の国際的連帯と力

強さの試練となりますとケア・ハーディは宣言した。ヨーロッパ大陸の鉱山労働者が、フランスとドイツとベルギーの鉱山労働者が労働者の国際的連帯をただの上辺だけの言葉か奥深い現実なのかを示すかどうかが問われます。☒拍手☒ もしフランスとドイツとベルギーの鉱山労働者が就業を続行してイギリスに石炭を送れば、イギリスの仲間の敗北を手助けすることになります。もし生産を拒否してストライキまでに及べばストライキが勝利することは間違いありません。同時に全世界の労働者の国際的連帯の思想は巨大で決定的な進歩を遂げます。仲間の皆さん、同時に実際労働者が諸国民の間の戦争を阻止する実証的な練習になりますとして、ケア・ハーディはこの問題についてゼネラル・ストライキによる戦争の阻止について☒第2インターナショナル——筆者注☒コペンハーゲン大会で彼が提案した動議を呼び起こした。<sup>☒30☒</sup>」

ケア・ハーディ-ヴァイアン決議は未だ第2インターナショナルで採択されていない懸案の問題であることを大会の聴衆に呼び起こした。しかしこの年のバーゼル大会においてもこの決議は採択されることはなかった。

引き続いてドイツ社会民主党 SPD の代表ミュラーが挨拶した。引き続いてチェコのネメツ、イタリア社会党のポンベオ・チオッティ Pompeo CIOTTI、ロシアのイメッサ IMESSA、ノルウェーの党を代表してエイナル EINAR が次々と挨拶した。議長は初めて他国の社会主義者が挨拶を行う記念するべき大会となったと賞賛した。デュブルイユ党書記長は全国協議会報告で84県連合・地方連合中の80連合が、200人の代議員が出席していると報告した。

## 第2節 ゲネシエール議員とコンペール-モレル議員の議会での発言と 1911年の鉄道労働者のストライキ

党議員グループの報告で、前述の代議院のゲネシエール議員とコンペール-モレル議員の発言が問題とされる。彼らは前年の代議院での演説で労

働総同盟 CGT の革命的サンディカリズムに基づく方針と行動について批判した。これが労働総同盟 CGT と社会党の相互の自立と協力関係を決定した第7回党大会の決定や社会主義インターナショナル・シュトゥットガルト大会の決議に反するとの批判が出され、感情的な相互の攻撃にまでいたる。2人の議員は元ゲード派に属していて、ゲード派は彼らの教義である労働組合運動は革命の担い手である社会主義政党の指導の下にあるべきであり、また議会選挙を通じて多数派となって権力を奪取して社会主義社会を実現するべきであって、革命的サンディカリストのゼネラル・ストライキによる革命はこれからの逸脱であると見ていた。

このゲード派の革命理論は社会党多数派から見れば、政治の領域で政党すなわちフランス社会党 SFIO の活動と、経済の領域での労働組合すなわち労働総同盟 CGT の運動を相互に尊重すると決定した彼らの提案による第3回リモージュ全国党大会決議に反するとみなされた。セヌ県連合のヴァイアンはこの見地からゲネシエール議員とコンペール-モレル議員を批判し、ジョレースも政党と労働組合と関係は一概には解決のつかない大きな問題と認めながらもヴァイアンの意見を支持した。

しかしこれに対して、党内での理論の自由な表明として支持するグループならびに彼ら2議員の議会での発言は労働運動の発展を目指すもので党の運方針に反していないとする意見が存在し、後者の立場から大会最終日の2月21日第4日目の会議で決議委員会から決議案が出された。その決議案は次のように言う。

「大会は議会での発言でゲスキエールとコンペール-モレル同志の発言は労働者階級の利益に役立つとする以外の如何なる目的も持っておらず、反議会主義と教条的暴力プロパガンダの危険に対して極めて真剣に注目を喚起するのに役立つと思ったものであった。☒大会はリモージュとナンシーとトゥルーズ全国大会とシュトゥットガルト・インターナショナル大会において労働者階級の労働組合の行動と政治行動に関して採択された決定を思い起させ、すべての労働者が必要な和解の成果のために自らに

言い聞かせることを求める<sup>31</sup>」とするかなり曖昧で妥協的な文案であった。すなわち党執行部が2人の議員に悪意はなかったが、同じことを繰り返さないように求める決議案であった。この決議案は2名の賛成しない決議案委員会のメンバーがいて全体一致での決定でないことを反対のメンバーは発言で強調したが、決議案自体を覆そうとするものではなく、当事者のコンペール・モレル議員もこの決議案に賛成し最終的には賛成2,258票対反対180票、棄権144票で可決された。多数派のセヌ県連合と当事者の議員が属する少数派でゲード派のノール県連合、アリエ県連合、ドルドーニュ県連合も賛成し、ヨヌヌ県連合などのエルヴェ派の県連合が反対しただけで、この時エルヴェ派の勢力は大きく凋落していた。

いままた党内のゲード派と反ゲード派＝多数派の抗争がぶり返したのである。しかし批判された労働総同盟 CGT は1910年の鉄道員ストライキの敗北で痛手を蒙っており、他方で穏健派レオン・ジュオーの執行部は反戦平和の課題で社会党に接近しつつあった。

1910年の鉄道員のストライキについては、ストライキに参加して解雇された鉄道員の再雇用と年金の問題が重点的に議論された。このゼネラル・ストライキは当時の20<sup>32</sup>もの物価高騰の中で日給5フランの増額を要求して行われたもので、地域的な偏りはあったが全国の鉄道員が参加した。今日の研究ではストライキ参加人数は43,525人、ストライキに参加して解雇された労組員は2,421人近くに及んだ。ストライキの敗北によるストライキを主導した全国鉄道労働組合 Syndicat national des chemins de fer と機関士・機関助手労働組合 Fédération des mécaniciens et chau<sup>33</sup>eurs の打撃は大きかったが、一部は再雇用され、翌年賃金の増額は<sup>34</sup>及的に実現し、退職年金制度も整備され、分裂していた鉄道員労働組合の統一への動きも加速して、1917年に統一を実現する。しかし労働総同盟 CGT が目指していたゼネラル・ストライキという直接行動による社会革命の実現は遠ざかった。

社会党のアルベール・トマヤコリーなどの代議士たちの大会での発言を

見れば、彼らが解雇後の再雇用による救済や解雇された鉄道員の退職年金の保障、そして鉄道員全体の労働条件改善のために尽力したことが分かるし、鉄道員の側からの救済の求めがあったことも確認できる。そして議会在政府に働きかけての労働者の救済は、革命的サンディカリズムの議会と政党の否定という理論とは真っ向から矛盾し相反するのであるが、労働総同盟 CGT 自体に社会党と協力せず独力で運動を維持することに限界が訪れた時代が到来したことを見いだすことが出来るのである。

### 第3節 鉱山の国有化とフリーメーソンの問題

この1910年鉄道員ストライキの議論の後に、付随する問題である鉱山の国有化問題が審議された。鉄道の国有化は経営破綻した西部鉄道などで実現し、フランス国有鉄道が1936年のマティニオン協定を経て1937年に設立されたのである。一方鉱山の国有化は炭鉱について1946年に実現した。1911年の時点では鉱山の国有化は実現されていなかった。しかし鉱山の安全な操業や労働条件をめぐって「鉱山を鉱山労働者に」と言うスローガンに示される鉱山の国営化、または国民経営化の要求は労働運動で根強く存在した。しかし国家イコール資本家と見るゲード派からみれば、鉱山の国営化問題は他の問題と同じように社会革命からの逸脱と見なされ、この大会でもゲードによる激しい反対にあって、アルベール・トマとの間で激しい論戦が展開された。

この他アルコールリズム☒アルコール依存症☒やフリーメーソンの問題が議論された。フリーメーソンについては「大会は労働者に彼らの務めはプロレタリアート階級の唯一の党である社会党に結集することを訴えて、大会は党員の活動を党の教義と原則と決定に矛盾しない場合は、政治活動だけに限定しないと宣言する。☒大会はとりわけ党員がフリーメーソンや自由思想☒リーブル・パンセ☒ 人民大学、『人権同盟』のような政治権力を獲得することを目的としない哲学的教育的精神的次元の諸組織に加入して



たちは分裂しており、労働者階級の全体一致によってこそ戦争の危機を阻止できると強調した。彼はバーゼル宣言を読み上げて、大会はこの宣言を採択した。最後に彼は次のように付け加えた。

「にもかかわらず指導者たちと外交官たちが私たちが奈落に導くならば、国民に対して私たちはこう言う権利を有しています。プロレタリアートはその義務を果たしました。プロレタリアートは暗黒の闇を消し去ろうとしました。プロレタリアートは国民にこう告げました。これは指導者たちの誤りでありであり、革命的手段を用いるまで追い込まれたのはプロレタリアートの誤りではありません。今脅かされた文明を、脅かされた国民を救う必要があるのです。」<sup>39</sup>

ジョレースはフランス社会党 SFIO 大会とバーゼル大会での全体一致を最大限考慮しながらも、シュトゥットガルト大会で提案したヴァイアン-ジョレース決議とコペンハーゲン大会で提案されたケア・ハーディ-ヴァイアン決議による開戦時の革命的手段による戦争への抵抗権にこだわっていたのである。

## 第4章 第2インターナショナル・バーゼル臨時大会

バーゼルで臨時大会が開催されたのは、この都市がドイツとフランス国境に面した中立国スイスに所在していたからであった。しかし主催者にとっては好都合な立地条件ではあったが、スイスの側には複雑な事情があった。もともと第2インターナショナルとスイスの社会主義運動との結びつきは弱かった。またロシアをはじめ外国からの多くの亡命者を抱えており、彼らの評判は必ずしも良いとは言えず、ロシア政府からの犯人引き渡しをスイスの州裁判所が認める場合があり、大きな反発を呼び起こした。<sup>40</sup>

23か国から約555人の代表が参加して大会が開かれた。<sup>41</sup> 大会の議題はただひとつ「国際情勢と戦争に反対する行動の一致協力」と定められていた。

決議案はオーストリアのヴィクトル・アドラー、ドイツのアウグスト・ベール、フランスのジャン・ジョレース、イギリスのケア・ハーディ、ロシアのゲオルギ・プレハーノフの5人によって提案され、満場一致で議決された。しかしバルカン戦争はブカレスト条約で講和が結ばれる1913年7月まで終結しなかった。

1912年11月25日の「ユマニテ ~~XXXXXXXXXX~~ 紙には第2インターナショナル・バーゼル大会の開会式前日の会場の様子についての次のような記事が載せられた。「今日は明日城内ホール Burgvogteihalle で議論を始める我がインターナショナルの幸先に相応しい偉大で美しい日であった。いつものインターナショナル大会と同じく装飾はすべて ~~□~~ っていた。赤旗と労働組合と社会党の名前が刻まれた色とりどりの赤い室内装飾と音楽とコーラス、そしてバーゼルの街路で素晴らしいデモンストレーションが社会主義者の心を、とりわけ古来のスイスの民主主義と共和主義の自由慣れ親しんでいないフランスの社会主義者の心を <sup>42</sup> ~~□~~ 歓喜させた。」「インターナショナルは昨日州政府から世界平和の一大勢力であるとの認証 considérant を受けた。バーゼル州政府は2人の急進党員と2人の保守党員と2人の社会党員と1人の無所属派を含む比例代表の政府である。この政府全体がインターナショナル大会への挨拶に署名して、連邦大臣のブルシュレーガーがこれを読んだのであった。インターナショナルは様々な政治的視野から集まったこれらの人々にとって脅かされた人類の崇高な頼みの綱として現れたのであった。社会主義の素晴らしい輝き。社会主義の輝きが正しさを証明している殆ど神聖な感情が染みこんだ言葉を、我々は数時間後に大聖堂でケア・ハーディとアドラーとジョレースの声から聞くのであり、かつて世界で知られる最も崇高で高貴な希望として社会主義を賞賛する声 <sup>43</sup> ~~□~~ を聞くのである。」

このユマニテ紙に載った11月24日付の大会開催日に電話で伝えられた別の記事には、24日午前10時に大会が開催されたことを伝え、開会式の様子について次のように書いている。その記事によれば大会の招請状は緊急に

送られたためにアメリカの代表は参加できなかったが、約500人の代表が参加したと報告する。

同日号の「ユマニテ」紙の記事によれば「演壇上には国際社会主義事務局が集まった。我々は良く知っているベーベル、ヴァイアン、カウツキー、アドラー、ジョレース、ケア・ハーディ、ブランティング、ローザ・ルクセンブルク、ペルネルストルファー-PERNERSTORFERを見いだす。さらにはグロイリッヒと戦争への英雄的反対で知られるブルガリアの社会党活動家サカソフがいる。パブロ・イグレシアスは未だ着いていない。ヴァンデルヴェルトは病気で欠席していて非常に悔やまれるが、彼の代わりにガンヘントの「フォールト前進」紙創設者として知られるエドゥアルド・アンセーレが、カミーユ・ユイスマンズと国際社会主義ベルギー執行委員会代表のフルネモンに補佐されて議長職を務める。バーゼル社会党コーラス隊のとても優美なカンターレの後に、アンセーレは臨時大会の開会を宣言した。彼によればこの大会は『国際情勢と戦争に反対する行動の協力関係を議題とする』と言った。アンセーレは直ぐにスイスの党の代表にして州政府のメンバーでバーゼル社会党支部書記のヴルシュレーガーに発言させた。彼はインターナショナルが大会の会議場にスイスの都市を選んだことに感謝した。19年前にチューリヒでインターナショナル大会が開かれ、バーゼルでは1869年に第1インターナショナルの大会が開かれた。参加者の多くはリープクネヒト父やヴァルラン、ド・パープ、ビュルクリのように既に亡くなっていた。この時大会参加者全員は起立して亡くなった人々の記憶に黙祷した。中略スイス代表の宣言と彼が会議に参加した州政府の挨拶は熱烈な拍手を受けた。この挨拶は大会が既に起きているので戦争を阻止するのではなく少なくとも戦禍を広げている地域の押しとどめ、戦禍からヨーロッパを守る目的を持っていることに賛辞を送った。アンセーレは熱烈で精力的な演説でこの歓迎と共感の祝辞に応える。バーゼル州議会は労働者インターナショナルがどれだけ戦争に反対する大勢力であるかを表明して大会の満場の拍手を受けた。次に

大会組織者と来場の大会参加者に賛辞を送った後で、彼は戦争に反対する戦術の一致に到達するために努力するであろうと宣言した。『私たちはここからかつてないほどに資本家たちに対して団結して出発しなければなりません。事態は早急に進んでいます。私たちの敵が予想するよりも早く進んでいます。私たちはたとえば未来において不意をつかれることなく労働者階級に対する敵から守るだけでなく、可能ならば攻撃しようと準備しようと思います。この大会を終えたならばインターナショナルは総員で平和を守るために立ち上がります。私たちは我が政府の首長にも我が工場の経営者にもバルカンに平和を☒共和主義連盟に結集するバルカンの諸国民に独立を☒外交的権謀術数もういらぬ☒と言わなければなりません。』素晴らしい演説の展開の中でアンセーレはすべての国民に訴えた。オーストリアとロシアには『ツァーリズムは自由の敵である』、と。フランスとドイツには『協調の時が来ている』、と。イギリスには皆殺しの計画でドイツと手を切るのではなく、文明の発展のためにドイツと団結するべきであると言った。今日の主人公たちにこうした基調で語りかけることが出来るのは、インターナショナルの偉大さと誇りであるとして、次のようにアンセーレは結論する。私たちの言葉がもし聞き届けられなければ私たちはこの言葉が戦争に対して平和が、資本に対して労働が勝利するために行動に移さなければならないと。ここで一つの叫びだけを表明しなければならない、『戦争に対して戦争を☒世界に平和を☒労働者インターナショナル万歳☒』、と。代表たちはアンセーレに拍手し、拍手はドイツ語とフランス語に翻訳されるまで止むことはなかった☒中略☒次に第1インターナショナルの生存者としてグロイリヒを大会の第1回会議の議長に指名した。副議長にはヴァイアン、ペルネルストルファー、ハーゼを、『この職務の特別な証をしるすために』ブルガリア代表のサカソフを指名した。☒<sup>44</sup>☒大会参加者は460名を超え、最終的には500名を大きく超えるであろうと報告をした後で、間もなくバーゼルの通りと修道院広場すなわち大聖堂で行われる☒<sup>45</sup>☒デモンストレーションを行うために正午に閉会した。

また同日の「ユマニテ」紙には「大聖堂の円天井のもと、30,000人のデモンストレーション参加者」と言う小見出しで「今日戦争に反対するインターナショナルのデモンストレーションに参加した者は、大きな円天井のもとで、かつて中世に有名なキリスト教の司教会議が開催されたゴティック様式の巨大な大聖堂の周辺で行われた大規模な集会に栄光を与えられたこの際だった日付を長く忘れることはないであろう。2時ちょうどに大聖堂にはいるためにデモンストレーションは主要な兵舎本部の近くで整列して、数百人ごと労働組合とスイスの他の都市のバーゼル社会党グループは赤旗を靡かせていた。古い団体のシンボルに彩られたその多くは人目を引いた。デモンストレーションに色を添えた12のプラスバンドが奏でたハーモニーの流れがわき起こり、列が組まれた。先頭を公式の行列を先導する軽騎兵として私たちの側で作った通りの交通整理をする百人ほどの党の自転車部隊が行進し、その後をバーゼル社会主義青年が続いた。その一部分は人目を引くウィリアム・テル<sup>ⓧ</sup>ヴィルヘルム・テル<sup>ⓧ</sup>の出で立ちでファイフ笛を奏でていた。そして白装束の<sup>ⓧ</sup>章を身につけて一人は平和を象徴する娘を乗せた花車を引いていた。その直ぐ後をインターナショナルの代表団の、ドイツ、ハンガリー、クロアチア、フランス、ベルギー、イギリス、ロシアの代表の長い行列が順番に進んだ。全員が各自の国の革命歌を唱っていた。インターナショナルの歌を熱烈にフランス人が歌い、大成功をおさめた。無数の群衆はデモンストレーションを喝采した。バーゼル人だけではなく特別列車で近隣州のスイス人やアルザス・ロレーヌ人やバーデン人が来ていた。デモンストレーションの多数の列の先頭が間もなく巨大な大聖堂に到着し、鐘が力一杯鳴らされ、密集した多数の社会主義者と群衆と赤旗を先頭に巨大な建物の中に入り、全員が隅々まで、回廊に至るまで<sup>ⓧ</sup>れかえる光景は印象的で驚嘆をもたらした。コーラスの中で数百の赤旗は間もなく並べられ、扉が閉められ大聖堂は立錐の余地がないまで満員になった<sup>ⓧ46ⓧ</sup>」と伝えている。

そして大集会では地元の社会党所属のバーゼル州政府議長プロヒャー

☒47☒ BROCHER が歓迎の挨拶を行い、戦争は資本主義まで破壊すると警告した。続いてドイツの社会民主党党首ハーゼとイギリス独立労働党のケア・ハーディが演説した。ケア・ハーディは訴えた。「私たちはここで人類に対してこれまで準備されたことのない最もおぞましい犯罪に対して立ち上がっています。今日ヨーロッパがおかれている重大な状況の責任の大きな部分は、1878年に普通ならば解決するべきであった事態を妨げたイギリスにあります。私たちは現在の恐ろしい危機を清算するでしょう」☒48☒とのべて、1898年のベルリン会議とベルリン条約でイギリスがバルカン半島の危機を解決せずにおごなりにしたことを責めた。「しかし労働者たちは今日全力で準備されている犯罪を食い止めるために立ち上がっています。ペーベルと私にはイギリスとドイツの労働者階級の間には如何なる敵対関係も憎しみもないというためにここにいます」☒49☒とのべてドイツ労働者階級との連帯を表明した。

続いてスイスの古参の社会主義者グロイリヒ GREULICH、ブルガリアのサクソフ、オーストリア社会民主労働党党首のアドラーが相次いで壇上に立った。アドラーは大聖堂にちなんでキリストの山上の垂訓を今日キリスト者が忘れ去っていることに触れて「今日の本当の平和の導き手☒羊飼いはキリスト☒は社会主義者であり、社会主義者である我々のみが、家族の敵であると言われている私たちだけがわが子たちを殺戮の場に送ることを望みません」☒50☒と語った。

アドラーの演説の後に歴史に残り、アラゴンの小説「バーゼルの鐘」にも引用された有名なジャン・ジョレースの演説が行われた。その全文は以下の通りである。

「市民諸君☒私たちはここに気がかりと責任の時に集まりました。責任の重さはまず持ってバルカンの同胞の肩に重くのし掛かりました。しかし最終的には前代未聞のこの責任はインターナショナル全体にのし掛かっています。まずもって私たちの連帯にかかっているからであり、次に紛争が拡大するのを、戦乱が悪化するのを、戦乱の炎がヨーロッパの

全労働者を包むのを阻止しなければならないからであります。これを阻止することは世界全体の全労働者の義務であります。これは国民の問題ではなく国際の問題であります。最近、フランスのブルジョア新聞がこの大会をからかってこれは単なる社会主義者のパレードであり、社会主義者たちは平和がまったく脅かされていないと良く知っているはずだとの見解をのべています。彼らはこうした抗議によって遅ればせに祖国を救ったと装うとしたいだけなのです。

しかし最近これらの同じ新聞がかなり深刻なニュースを発表しなければならなくなっています。危険と混乱がいたるところで支配的であるというのが真実です。資本家階級自体が2つの陣営に分裂し分離していて、資本家階級がこの全般的衝突で勝利するか敗れるかを知らないというのが真実です。すべての政府は途方もない結果を恐れながら、解決策を採ることが出来ないでいるのです。

すべての国に敵対する勢力があります。一方は平和に反対であり、他方は戦争に反対です。運命の女神の天☒棒は政府の手中で揺れています。しかし未だ躊躇っている人々を突然眩暈が襲うでしょう。だからこそ我々あらゆる国の労働者と社会主義者が平和の天☒棒に我らの力を加えて戦争を不可能にするべきであります。嗚呼私はそれをのぞみます。この戦いを行うのは我々だけではありません。ここバーゼルではキリスト教者が大伽藍を私たちに明け渡してくれました。私たちの目標は彼らの思想と意志に応じています。彼らの主の言葉にいまだ真剣に従っているキリスト教者は同じ希望を抱いているでしょう。彼らは私たちと共に戦争の悪魔の爪に捕まるのに反対するでしょう。今朝バーゼルで私たちに向けられた歓迎の祈願の性格は励ましと希望を私たちに与えました。バーゼル市政府からインターナショナルに向けられた歓迎の言葉は、同じ感情を呼び起こしました。これは良き予兆でした。そこには民主主義の精神はバーゼルのように深く浸透していました。そこにはこの精神がバーゼルに付き従う組織されたプロレタリアートを有していました。そ

こにはあらゆる国民に広がった高貴な確信が存在し、常に我々に希望を与えました。

私たちは先ほど全体の和解の呼びかけと思われるこの教会の鐘の音を聞きました。象徴的な鐘の上にシラーが刻んだ刻印を私たちに呼び起こしました。生きている者を呼び起こす、死者を嘆く、雷が引き裂く *Vivos voco, mortuos plango, fulgura frangor!* 生きている者を呼び起こす *Vivos voco*。私は生きている者が地平に現れた怪物から身を守ることを訴えます。死者を嘆く *Mortuos plango*。私はそのオリエントに横たわる無数の死者を嘆きます。死臭が悔恨の念のように私たちに届いています。雷が引き裂く *Fulgura frango*。私は暗雲の中で我々を脅かす戦争の雷を引き裂くでしょう。

しかし闘いのための善意がそこかしこに分散し躊躇っているのでは不十分です。戦う組織されたプロレタリアートの意志と行動の統一が私たちに必要です。時は深刻で悲劇的です。危機が明確になるにつれて、プロレタリアートが我々に、否彼自身に課す問題が緊急なものになっています。もし怪物のような事態が本当にそこに存在し、私たちの同胞を殺戮するために歩いて来ていることが本当に避けがたいならば、この恐るべきことを免れるために私たちは何をすべきでしょう。この恐るべきことによって余儀なくされたこの問題に決められた時に決められた運動を予め決めることでは対処できないでしょう。暗雲が集まり、怒濤がわき起こった時に船員はいつも採るべき手段を予告することが出来ません。しかしインターナショナルはいたるところに平和の言葉を浸透させるために、戦争を阻止する合法的で革命的な行動をいたるところに展開させるために心を配り、そうでなくとも扇動者になるであろう犯罪者に釈明を求めることに心を配らなければなりません。

ヨーロッパ各国の政府はこの大会の本当の意義が私たちの統一を強調し、実現し、強化することであると理解するべきです。私たちは意見と考えと知識と約束と決定と希望を交換します。そしてこの行動は大会が

終わってからも止むことはありません。

私たちはいたるところに大衆に私たちの行動の義務感を運び、再び私たちがあらゆる議会で平和を望んでいることを確認させるべきであります。

この思想と平和ですべての頭脳を満たし、もし政府が決断できず逡巡しているならば、私たちはプロレタリアの講堂を実施に移します。これこそこの大会の成果であります。これ以上高貴なことはありません。すでにこの沢山の思想と沢山の希望はこの円天井にむかって立ち上がっています。しかしこの夢がどんなに高く舞い上がっても、正義と平和を生かす意志ほどには崇高なものはありません。

この同じ教会で教会大分裂☒シスマ☒と解体に反対する司教会議が開催されたことがありました。教の会議と何と対照的でありましょう。私たちは利益の対立から分裂しておらず、心と思想と教義と行動、あるいは意志によって私たちは団結しています。そして平和と文明を救うことを誓ってこの大会議場を去ります。

私たちは一人のドイツ人が最近次の言葉を言ったことを思うでしょう。『政府は戦争の危険を切り抜けることに思いをめぐらし、国民は彼ら自身の革命が他の国民との戦争よりも少ない犠牲者ですむことを簡単に計算できるでしょう』☒繰り返される嵐のような喝采☒

大会第1日終了後にバーゼルのカテドラルの外に10,000人から15,000人の市民が押し寄せ、4つの演壇に分かれて演説を行った世界各国から大会に参加した社会主義政党代表の演説を聴いた。

大会第2日11月25日の会議はスイス社会党のグロイリヒ GREULICH の議長の下で午前10時数分前から始まった。開会后ジョレースは「私は国際社会主義事務局 BSI が熱心な研究の後で全体一致で採択した決議をあなた方に提案してあなた方の承認を得たいと思います」と前置きして、大会の決議を読み上げた。

この大会第2日にジョレースが読み上げた、後の世に「インターナシヨ

ナルの宣言」として知られることになる「バーゼル宣言」はかなり長文である。しかしこの宣言はバルカン戦争の背景やバルカン諸国の社会主義者が採るべき方針、そしてドイツ、フランス、イギリスの社会主義者の任務についてなど極めて多様な内容を含んでおり、特にバルカン戦争の国際的諸勢力と諸列強の配置の中で位置づけは、多くの示唆的な指摘を含んでいる。今日でもユーゴスラヴィア連邦が崩壊した過程で1990年代と2000年代の初めにいくつもの複合的な戦争として再現したバルカンの諸問題は、内部的な諸民族間の確執と軋轢から生じた紛争と外部の大国による介入という構図は90年を隔てた今日でも大筋において変化がなかった。ただ国際連合による平和維持の軍が駐留したことに新しさが垣間見られた。いわゆる『バーゼル宣言』の全文を以下に引用する。

「インターナショナルはシュトゥットガルト大会とコペンハーゲン大会ですべての国のプロレタリアートの戦争に対して闘う行動基準を次のように定めた。『もし戦争が差し迫るならば、関係諸国の労働者階級の義務は、行動と協力関係の利点を持つ国際事務局の協力を得た彼らの議会代表の義務は、最も適切であると彼らが思うあらゆる手段で、階級闘争の深刻さと全般的政治情勢に従ってかわるであろう手段で戦争を阻止することである。しかし戦争が起きた場合はすぐさま中断させるために介入し、戦争が生み出した経済的政治的危機を彼らのすべての力で人民階級の最深部まで扇動し資本家支配の没落を促進するために利用することである』。かつて以上に諸事件は国際プロレタリアートに可能な力強さと精力で連携した行動を法として与えた。第1に悪化する軍備拡大の世界に広がった狂気と物価高騰は階級対立を激化させ、労働者階級に耐え難い不満を生み出した。☒インターナショナルはこのパニックと浪費の体制に終止符を打つことを望んでいる。他方で定期的に繰り返される戦争の脅威は次第次第に反感を買い、ヨーロッパの大国の国民は国民の利益という口実では覆い隠せない人類と理性への攻撃に、お互いが敵対するところにまで投げ出されている。バルカンでの危機はすでに多くの

戦災を引き起こして、文明とプロレタリアートにとって極めて恐ろしい危険として広がっていると言える。☒同時にバルカンの危機は人が引き合いに出す破局の甚大さと無益さの不釣り合いによって、歴史的な大スキャンダルの一つになっていると言える。☒故に大会はすべての国の社会党と労働組合の完全な全体一致で戦争に対する戦争となっていることを喜びを持って avec joie 確認する。☒いたるところでプロレタリアは帝国主義に同時に立ち上がっている。☒インターナショナルの各支部は、自国の政府にプロレタリアートの抵抗を対置し、戦争の突拍子もない思いつきに反対して自国の世論を動員している。☒かくしてすでに脅かされた世界を救うために多大な貢献をしているすべての国の労働者たちの協力が明確なものになっている。☒全般的戦争に引き続いて起きるプロレタリアの革命への指導者階級の恐怖は、平和の本質的な保障である。☒大会は各国社会党が彼らに相応しいと思われるすべての手段で、行動を精力的に持続することを求める。この共同の行動で各社会党に個別の任務を大会は割り当てる。☒バルカンの社会主義者は古い確執を繰り返すことに反対しなければならない。☒バルカン半島の社会党は重い任務を持っている。☒ヨーロッパの列強はあらゆる改良を系統的に先延ばしすることで、トルコに経済的・政治的混乱と☒乱と戦争を必然的に導くであろう民族的熱狂の過剰な興奮を産み出すのに貢献した。☒諸王朝とブルジョア階級によるこの状態の悪用に反対して、バルカンの社会主義者は英雄的な勇気を持って民主的連邦の要求を掲げた。大会は彼らに彼らの素晴らしい態度を持ち続けることを求める。バルカンの社会民主主義は恐ろしい犠牲を払って獲得された結果を諸王朝によって、軍国主義によって、領土拡張に貪欲なバルカンのブルジョアジーによって横取りされ、ゆがめられないように戦後において成果を実現することが重要である。☒大会はとりわけバルカンの社会主義者にセルビアとブルガリアとルーマニアとギリシアの間での古い確執を一掃するだけでなく、現在他の陣営であるトルコ人とアルバニア人の陣営にあるバルカンの諸国

民の抑圧に反対しなければならない。☒バルカンの社会主義者はこれらの諸国民の権利に対する侵害と闘う義務と荒れ狂うショーヴィズムと民族的熱狂に反対して、アルバニア人とトルコ人とルーマニア人を含むバルカンの諸国民の友愛を支持しなければならない義務を持つ。オーストリアとハンガリーとクロアチアとスロヴェニアとボスニア-ヘルツェゴヴィナの社会主義者は、全力でセルビアへのドナウの君主国攻撃に対して精力的な反対を継続する義務を持つ。☒これまで追求されてきたような武力でセルビアから身ぐるみ剥ぐような政策と、オーストリアの一種民地に変えようとする政策と王朝の利益のためにオーストリア-ハンガリーの諸国民とヨーロッパの全部の国民を極めて重大な危険の巻き添えにする政策に抵抗する義務を持つ。☒オーストリア-ハンガリーの社会主義者はまた現在部分的にハプスブルク家によって支配される南スラブ諸民族の将来のために闘い、オーストリア-ハンガリー君主政の内部からさえも民主的な自治を行うことを獲得するために闘わなければならない。☒オーストリア-ハンガリーの社会主義者はイタリアの社会主義者のようにアルバニア問題に注意を払わなければならない。大会はアルバニア民族の自治権を認めるが、自治を口実にアルバニアはオーストリア-ハンガリーとイタリアの野心の犠牲になってはならないと考える。☒大会はそこにアルバニア自身にとっての危険のみならず、オーストリア-ハンガリーとイタリアの間の平和への脅威が存在すると判断する。バルカンの民主的連邦の一員としての自治の下にこそ、アルバニアは本当に独立した生き方を実現できるのである。☒大会はそれゆえにオーストリア-ハンガリーとイタリアの社会主義者にアルバニアを自分の勢力圏を含めようとする彼らの政府の試みと闘うことを求め、オーストリア-ハンガリーとイタリアの平和的な結果を保障する努力を続けることを求める。☒大会はロシアの労働者の抗議ストライキに大きな喜びを表明したい。そこにロシアとポーランドのプロレタリアートがツアーリズムの反革命がもたらした打撃を修復した証を見いだす。☒大会はこの労働者

の行動に彼らの帝国の労働者の流血で崩壊させ、バルカンの諸民族に多数の彼らの敵に引き渡した裏切りを行った後に、戦争が彼らにもたらした恐怖と彼ら自身が生みだした民族運動の恐怖の間で現在よめいているツァーリズムの犯罪的陰謀に反対する保障を見いだしている。☒ゆえにツァーリズムが現在バルカン諸民族の解放者として立ち現れようと試みているのは、偽善的な口実のもと血に塗られた辱めによってバルカンでの優越性を再び獲得しようとしているために他ならないのである。☒大会はロシアとフィンランドとポーランドの都市および農村の労働者階級が増大する力で嘘の暗幕を引き裂き、ツァーリズムの戦争による冒険とアルメニアとコンスタンチノーブルでのあらゆる企てに反対することが、ツァーリの専制主義からの解放の闘いに全力を集中することが重要だと見ている。☒ツァーリズムはヨーロッパのあらゆる反動的精力の希望であり、ロシア国民の最も恐るべき敵対者であるようにヨーロッパ民主主義の最も恐ろしい敵対者である。インターナショナルはツァーリズムを打倒に導くことが最も主要な任務であると考えている。☒しかしインターナショナルの行動の最も重要な任務はドイツとフランスとイギリスの労働者に課されている。☒これらの国の労働者は、現在彼らの政府にオーストリア-ハンガリーとロシアへの救済を拒否することを求め、バルカンの紛争に介入することを留保して絶対的中立を守ることを求めるべきである。ドイツとフランスの労働者は人類の文明を導いている三大国の間で港湾をめぐってのセルビア-オーストリアの紛争から戦争が起これば、犯罪的愚行となる。バルカンの紛争に参加することを義務づける秘密条約を受け入れてはならない。☒もしそれに引き続いてトルコの軍事的崩壊が小アジアでのオスマン帝国の力量を揺るがしたならば、イギリスとフランスとドイツの社会主義者の義務は全力で全面戦争へとまっしぐらに導く小アジア征服政策に反対することである。☒大会はヨーロッパの最大の危険はイギリスとドイツ帝国の間で人為的に保持されている敵対関係であると考えている。☒両国の労働者階級のこの対立を沈

静化させる努力を称賛する。大会はこのための最良の方法は海軍軍備についての合意の締結と海上での船舶捕獲の廃止であると考え。☒大会はイギリスとドイツの社会主義者にこの合意のためのプロパガンダを求める。ドイツ対フランスとイギリスの対立の沈静化は世界平和にとっての最大の危険を取り除くことになるであろう。☒それはこの対立を利用するツァーリズムの力量を揺るがし、オーストリアのセルビアへの攻撃を不可能にし、世界的平和を保障する。インターナショナルのすべての努力はこの目的に向けられるべきである。☒大会は社会主義インターナショナルが対外政策のこの重要な見解のために統一することを確認する。☒大会はすべての国の労働者に資本主義的帝国主義に対してプロレタリアートの国際的連帯の力で反対することを求める。大会はすべての国の指導者階級にこれ以上戦争の行動を拡大して資本主義生産様式によって大衆を困窮に陥らせないように通告する。☒諸政府は現在のヨーロッパの事態において、労働者階級の精神敵態度において、彼ら自身に危険を与えること無しに戦争を起こすことは出来ないことを良く知ってほしい。☒太線原文☒☒彼らは独仏戦争がパリ・コミューンを引き起こし日露戦争がロシア国民の革命勢力を動員したことを思いおこさねばならない。彼らは陸軍と海軍の軍事費のエスカレートがイギリスにおいて社会紛争を、大陸において途轍もないストライキの前例のない荒れ狂った先鋭化をもたらしたことを思いおこさねばならない。☒彼らが巨大な戦争はすべての国のプロレタリアートの憤激と怒りを巻き起こすことに気付かないのならば狂気の沙汰である。☒労働者は資本家のために、あるいは王朝の奢りのために、あるいは秘密条約での結びつきのために、お互いが銃を撃ち合うことを犯罪であると考えている。☒もし諸政府が通常の進歩の可能性をとりやめて、ヨーロッパ全体のプロレタリアートを絶望的な決心をするまでに追いつめたならば、彼らによって引き起こされた危機の責任は彼らに帰するのである。☒インターナショナルはこれまで強力であったプロパガンダによって、より確固とした抗議に

よって、戦争を予防するための努力を倍加するであろう。☒大会はこのために国際社会主義事務局 BSI に、注意を強化して事態を見守り、何があろうともすべての国のプロレタリアの党と連絡と連携をとる責務を負わせる。☒プロレタリアートは人類の将来が現在彼らに掛かっていることを自覚しているし、甚大な殺戮と飢餓とペストのあらゆる恐怖に脅かされているすべての国民の花が萎れることを阻止するために彼らの全精力を用いるであろう。☒大会はあなた方すべての国のプロレタリアと社会主義者全員に、この決定的な時にあなた方の声を聞いてあらゆる形態でいたるところであなた方の意志を確認することを訴える。☒全力で議会に対して一致したあなた方の抗議を行い、デモンストレーションと大衆行動で団結し、諸政府がいつもあなた方の前で平和への決然とした労働者階級の熱心で強力な意志が分かるようにプロレタリアートが手中にしているプロレタリアートの組織と力によるあらゆる方法を行使しよう。☒搾取と殺戮の資本家陣営に平和と諸国民の団結のプロレタリアート陣営の大衆を対置しよう。」

そして宣言を読み上げた後にジョレースは次の言葉を付け加えた。

「私が付け加えるのはひとつの言葉だけです。とりわけフランスの仲間がこの決議を採択するのを推奨します。この決議は3つの特徴で際立っています。第1にこの決議はインターナショナルのすべての政党に共通の対外政策を定めていることです。この決議は諸国の政府にもシエゴイストの野望を放棄するならば国際的団結が可能であることを示した具体的な成果をこうして実現したことです。第2に万一の場合の極めて多くの多様性について、決議は特別なかたちの行動を定めていませんし、いずれをも排除していません。決議は諸国の政府に警告を発し、革命的状況、そうです、人が想像できる最も革命的な状況が容易に生み出すであろう事態に明確なかたちで注意を喚起しています☒激しい拍手☒もし本当に世界大戦という前代未聞の犯罪が犯されたならば、プロレタリアは同じ思想と同じ感情で団結して、指導者たちは労働者たちに彼らの生

命ばかりか良心をも犠牲にすることを求めることを知るでしょう。最後に決議は私たちの支部の統一と強力さを証明しました。

市民の皆さん。この大会はすでに大事件であり歴史的事実であります。インターナショナル全体に共通な諸原則を定めることに満足せず、大会はとりわけ私たちの行動の必要性和統一をあきらかにさせました。私たちは議会で大衆の中でこの行動を継続するでしょう。戦争という恐ろしいことを不可能にさせる有効な手だてを実行するでしょう。そして同時にプロレタリアートの利益が分明と人類そのものと一致していることを私たちは示すでしょう。嵐のような拍手

インターナショナルは世界のあらゆる道徳的力 toutes les forces morales de l'univers を代表しています。そして私たちが全力を出し切る悲劇の時が告げられたならば、この真実の良心は私たちを支えて力をあたえてくれます。私たちは軽々しく言っているのではなく、あらゆる犠牲を我々が厭わない私たちの存在の深部から宣言しているのです。よめきと嵐のような長く続く拍手

ジョレースの結びの言葉の後で、アドラーがドイツ語で、ケア・ハーディが英語で宣言文を読み上げ、第2日午前の会議は2時半に終了した。

午後3時に開始された午後の会議の冒頭で宣言は採択された。最初にドイツ社会民主党 SPD のハーゼが演壇に立って宣言を支持する演説を行った。その他女性を代表してツェトキンが、ドイツを代表してベーベルが、フランスを代表してヴァイアンが宣言に賛同する演説を行った。最後にこの日の議長を務めたスイス社会民主党のグロイリッヒ GREULICH が結語をのべて大会は閉幕された。22か国555人の大会参加者は「戦争に対して戦争を War against War! — Guerre à la Guerre! — Krieg dem Kriege!」と英語、フランス語、ドイツ語で叫んで散会した。

本論文の結びとして

この1912年11月に開催されたバーゼル大会は、バルカン戦争がヨーロッパ全体の全面戦争に発展することを、インターナショナルが、そしてフランスとイギリスの社会主義者が危機感を抱いたことに端を発する。さらに☒ればバルカン戦争の伏線は1878年のベルリン会議とベルリン条約に☒ることができる。この会議と条約によってオスマン帝国によって支配されていたバルカン半島の諸民族のうちロシア-トルコ戦争の講和条約サン-ステファノ条約でセルビア、ルーマニア、モンテネグロの3国の独立が認められた。しかしサン-ステファノ条約で自治権を認められたブルガリアは3分割され、ブルガリア公国の部分の自治権のみが認められることに後退した。2度にわたるバルカン戦争にいたる前段階には、イタリアによるトリポリタニア占領に始まるイタリア-トルコ戦争が1911年9月29日に勃発し、1912年10月18日に終結した。バーゼル大会に時点ではイタリア-トルコ戦争はすでに終結していた。しかしバーゼル大会が始まる1月以上前の1912年10月8日には第1次バルカン戦争が始まっていた。ロンドン条約の締結により、1913年5月30日に第一次バルカン戦争は終結した。しかしロンドン条約による和平は一時的な猶予期間でしかなかった。オーストリア-ハンガリー帝国はバルカン同盟によるオスマン帝国への戦争を阻止できなかったが、アルバニア人の国家を建国してセルビアのアドリア海への通路を塞ぐ、という目的を達成できた。1913年6月29日にはバルカン同盟内部でブルガリアと他の3か国セルビア、モンテネグロ、ギリシアとの間で第2次バルカン戦争が開戦し、ルーマニアとオスマン帝国もブルガリアに宣戦する。外部ではロシア帝国はブルガリアなどのスラヴ諸国を援助し、イギリス、オーストリア-ハンガリーがこの戦争に間接的に介在していたために、ヨーロッパ全体の戦争に発展する可能性を大いにはらんでいたのである。すでにオーストリア-ハンガリー帝国は1908年に青年トルコ党の革命の間隙をぬって、外交的戦略でロシアの合意を取り付けてボスニア-ヘルツェゴヴィナを併合していた。

歴史を回顧すれば明らかなように、第1次世界大戦はロシアに支援され

るセルビアとオーストリア-ハンガリー帝国の対立に起源する。バーゼル大会が開かれた1912年11月の時点では第1次バルカン戦争が勃発しており、この戦争が引き金となってヨーロッパの大戦争が起きることを危惧した第2インターナショナルが、ヨーロッパ全体の戦争を阻止するためにこの臨時大会を開催した。しかしこの大会が呼びかけたヨーロッパ諸国の労働者階級による反戦平和運動は続いて起きた第2次バルカン戦争を阻止することも、その後に第1次世界大戦を引き起こすセルビアとロシア対オーストリア-ハンガリー帝国の間の緊張を緩和させることも出来なかった。おそらくは第2インターナショナルが主導する反戦平和運動のみでは限界があると第2インターナショナル執行部自体が実感していて、国際的仲裁の必要性を認めていたと考えられることは、第2インターナショナル・シュトゥットガルト大会とコペンハーゲン大会の決議からも知ることができるし、ケア・ハーディ-ヴァイアン決議によって労働運動による国際的同時的な軍需産業部門でのゼネラル・ストライキを主張していたジョレースやヴァイアンらのフランス社会党 SFIO 主流派もケア・ハーディを中心とするイギリス労働運動もこのゼネラル・ストライキによって国際的仲裁をもとめることを究極的には考えていたのであった。

しかし当時の制度化された国際的仲裁の常設機関と言えば、ハーグ平和会議から誕生した国際常設仲裁裁判所ぐらいしか存在しなかった。第1次世界大戦を経て国際連盟が、第2次世界大戦を経て国際連合が誕生したのであり、人命の膨大が犠牲の結果ようやく人類は国際的平和のための常設機関を手に入れたのであるが、この2つの国際常設機関であっても両大戦間の国際連盟ばかりではなく第2次世界大戦から生まれ現存している国際連合でさえ大国の意向から完全に離脱した中立的な独立した機関とは言いきることはできない。

これらの国際的な国際平和維持のための常設機関が存在しなかった第1次世界大戦以前には、世界的規模の戦争はおろか、地域的紛争でさえも、労働者階級を中心とする社会主義インターナショナルがその持てる力すべ

てを尽くしても阻止することはほぼ不可能に近かった。しかし国際的国際紛争仲裁の常設機関の先駆となる「国際平和事務局 Bureau international de la paix」創設者の一人であったベルギー労働者党の元老院議員アンリ・ラ・フォンテーヌ Henri LA FONTAINE がノーベル平和賞を1913年に受賞したばかりではなく、第2インターナショナルもノーベル平和賞の授賞候補組織に挙げられていた。アメリカ大統領ウッドロー・ウィルソンの構想や彼の「14か条の原則 Fourteen Points」から「新外交」が単線的に生み出された訳ではない。第1次世界大戦前夜に反戦平和運動を孤軍奮闘で支えた第2インターナショナルの執行部は、フランスでは「神聖連合」にドイツでは「城内平和」に、すなわち自国の戦争に協力することになった。党内主流派と袂を分かった和平派の「ツィンマーヴァルト平和会議」と「キンタール平和会議」に参加した社会主義者と、ツィンマーヴァルト左派の「内乱から革命へ」のテーゼを生み出し、戦争に協力した第2インターナショナル主流派を真っ向から批判して「平和の布告」によって無賠償・無併合・秘密外交の禁止の原則を掲げて即時講和を約束してボルシェヴィキ革命を導いたレーニンは「ウィルソン対レーニン」として「新外交」を生み出す原動力の一つとなった。

国際連盟もウィルソンが彼の腹心ハウス大佐に命じて作製した「14か条の原則」第14条に単純に起源するのではない。1898年にベルンに結成された「国際平和事務局」や1889年に第1インターナショナル創立に参加したクレマー Sir CREMER やフレデリク・パッシー Frédéric PASSY などが提唱してジュネーヴに本部が設けされた「列国議会同盟 Inter-Parliamentary Union IPU」、そして1899年と1907年のハーグ国際平和会議でフランス急進社会党の指導者レオン・ブルジョアが構想した国際仲裁の常設機関や1918年11月にイギリスの平和運動から誕生した「国民連合連盟 League of Nations Union」などの先駆的運動や組織があった。

「大国であれ小国であれ政治的独立と領土的保全の保障を与える目的のための for the purpose of aording mutual guarantees of political independence

and territorial integrity to great and small states alike 14か条第14条に、国際連盟は、そして実際には戦勝国の大国によって構築された国際連盟は、直接には社会主義インターナショナルや国際社会主義運動が参加し準備した組織ではなかった。また戦勝国側の大国によって宥和政策が行われた場合には「ミュンヘン会談」のように根底から崩壊する性格の国際機構であった。

第2次世界大戦後の国際連合には戦勝国に社会主義国家ソヴィエト連邦が加わっておりこの国際組織の設立に関与し、拒否権を保有する安全保障理事会常任理事国の5か国は戦勝国側大国によって構成されたが、東西冷戦によって2つの陣営に分裂し、ソ連崩壊後もソヴィエト連邦がロシアに置き換わっただけであってこの構図は基本的には現在のところ変わっていない。かえって冷戦に勝利したアメリカの一局支配が強まり、そこから排除されたロシアは中国に接近して新たな冷戦時代に逆戻りしている。現在のところ大国どうしの戦争は回避されているが、イデオロギー対立ばかりではなく宗教や人種問題などを原因とした局地戦争や代理戦争などが相次いで発生し、戦乱に終止符が打たれて世界秩序が安定化に向かっている様子は確認できない。

バーゼル大会が開催された第1次世界大戦前夜の20世紀初頭のヨーロッパや世界では、世界大戦をもたらすであろう当時の主要大国のドイツ、フランス、イギリスとオーストリア-ハンガリー帝国、ロシアとオスマン帝国に対してそれらの諸国家の政治的経済的利害を原因とするヨーロッパ規模・世界規模での戦争を開始するのを決定的に阻止できる圧力は、力量として不十分な社会主義インターナショナルの反戦平和運動をのぞけば、列強が抱いていた自らの帝国の解体への恐れ以外にはなかった。結果的に見ればドイツ、オーストリア-ハンガリー、ロシアの4つの帝国が崩壊したのであるが、戦前において敗戦によってドイツやオーストリア-ハンガリー帝国などは帝国が崩壊することを十分に知ってはいたが、帝国の崩壊を戦勝によって回避できると考えていた。ロシア帝国は敗戦を経験しな

かったが戦争による窮乏化の結果革命によって帝国は崩壊した。

バーゼル大会の時代に世界的規模の戦争によって革命が起きるという可能性を社会主義インターナショナルは一定程度予測していたが、それを戦争を阻止する力として行使することが出来なかったばかりか、彼らの合法的な組織が解体される危機を戦争の協力者になることによってしか乗り越えることは出来なかった。合法的な強力な党組織を持っていなかったボルシェヴィキが「戦争を内乱へ」とのテーゼを提示し、ボルシェヴィキ革命を行うことに成功したが、第2インターナショナルの一部が講和を主張したにせよ理論的には敗者となって、戦後に各国でボルシェヴィキ支持派と反ボルシェヴィキ派に分裂することになる。

21世紀の時点で回顧して、バーゼル大会で頂点を極めた第2インターナショナルの反戦平和運動の意義と限界を論じることはむつかしい作業である。特にこの運動が戦争を阻止する可能性があったかを論じる意味が問われるかも知れない。しかしその後の国際的社会主義運動を考察する場合にはこの時代の国際社会主義運動・労働運動による反戦平和運動の意義と限界を論じることは、一概には無駄とは言えないであろう。おそらくはその限界性が第1次世界大戦後の国際社会主義労働運動の方向性を決定づけたのであればなおさらである。もし結果的には限界性を持ったこのような反戦平和運動でさえ存在しなかったならばと想定すれば、ショーヴィニズムの嵐の中で戦争を諸国民は歓迎したという歴史しか残されない結果となるのである。結果的には既成事実の積み重ねにたいして為す術を失ったとしても、人類の歴史において究極的な殺戮の戦争に対して抵抗した歴史を人類は残したのであった。

☒

☒☒☒紛争が起きた場合には戦争を阻止し資本家の支配を倒壊させるための「措置の執行を保証するために大会は国際社会主義事務局が国際紛争の場合に関係諸国の労働者の党が共通行動をとるための合意を作り出すように働きかける」Secrétariat

du Bureau Socialiste International; [REDACTED]  
[REDACTED]  
Gand, 1911, p.193ことがコペンハーゲン大会で決定されていた。

[REDACTED]HAUPT, Georges; [REDACTED]  
[REDACTED]Paris. François Maspero.1965. pp.32-34

[REDACTED]p.34-35

[REDACTED]HAUPT, Georges; « Jaurès à la Réunion du Bureau Socialiste International des  
28 et 29 Octobre 1912». [REDACTED]o.11,octobre-  
novembre.1963. p.4.

[REDACTED]オランダ代表の延期提案の背景にはドイツ社会民主党ケムニッツ大会で大会延期  
を求めたドイツ社会民主党の意向をくんだと第2インターナショナル研究者の  
オープトは見ている。そして大会の延期をのぞんだのは背景にドイツ社会民主党  
とチェコの党との対立があり、インターナショナル大会でこの対立を表に出した  
くなかったのだと彼は見ている。HAUPT, Georges; [REDACTED]  
p.38

[REDACTED] p.39

[REDACTED]HAUPT, Georges; « Jaurès à la Réunion du Bureau Socialiste International des  
28 et 29 Octobre 1912». [REDACTED]p.4-5

[REDACTED]p.6-7

[REDACTED].9

[REDACTED]p.8-9

[REDACTED]11[REDACTED]Parti socialiste,Section française de l'Internationale ouvrière:[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]Paris. Au siège du Conseil National.1911. p.17

[REDACTED] p.5

[REDACTED] pp.130-132

[REDACTED] p.59 ヴァイアンの国際社会主義事務局の報告は議案書の付録 ANNEX とし  
て pp.53-60に全文が収録されている。

[REDACTED] p.239

[REDACTED] p.240

[REDACTED]書簡の全文は [REDACTED] p.243を参照。

[REDACTED] pp241-244

[REDACTED] pp.250-267



